

2018年4月号 / No.216 / 平成30年3月20日発行



野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



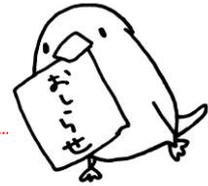
キリっとした姿！ ヒレンジャク君 (小城公園/撮影:加藤芳隆さん)

野鳥さが216号 主な内容

- 支部からのお知らせ2ページ
- 愛鳥モデル校活動報告3ページ
- 各地の観察会報告4ページ
- 皆さんからのおたより9ページ
- 有明海の満潮時刻14ページ
- 皆さんからの野鳥&生きもの情報15ページ
- 最近の新聞・情報誌の記事から16ページ
- 近隣地区の観察会情報18ページ
- 観察会会場までの案内19ページ
- 観察会などのお知らせ (2018年3月下旬~6月)20ページ



支部からのお知らせ



◆ ようこそ 佐賀県支部へ！・・・支部入会者情報

前号（215号）でお知らせした以降の入会者を「大歓迎！」の気持ちを込めてご紹介いたします。

4月入会 久野 妙子さん（佐賀市鍋島町）

4月入会 河口 秀博さん（福岡県柳川市）

以上2名の方の3月中旬現在でのご入会が確認されました。

（今回は支部報の発行がいつもの月よりも早かったため月末の確認ではありません。）
佐賀県支部の会員は現在218名です。

野鳥の会会員の皆様！

皆様の周りに、花や昆虫など自然の生き物に興味・関心をお持ちの方はいらっしゃいませんか？ 観察会などにお誘いしてみてください。

野鳥の会は「いつでも入会OK」です。

日本野鳥の会とは

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、野鳥や自然の素晴らしさを伝えながら、自然と人間とが共存する豊かな社会の実現を目指し、活動を続けている自然保護団体です。

◆ 支部総会開催のお知らせ

2018年度支部総会を下記日程で開催します。2017年度の成果や反省を踏まえ、今年度の活動方針を決める大切な場です。これからも佐賀県支部を盛り上げていくためにも、ぜひ、多くの皆さんの参加をお願いします。

【日時】6月3日（日）10:00～

【場所】佐賀市大和町石井樋公園の「水ものがたり館」



※ 当日は09:00から石井樋公園観察会を行います。観察会終了後、引き続き御参加下さい。また、参加される方は事前送付の「支部総会議案書」をご持参下さい。





愛鳥モデル校活動(後半)報告 (報告:馬場 清)

【伊万里市立東山代小学校】

①「野鳥観察会」 平成30年1月16日 生徒62名

当日は学校近くの運動公園に集合し、数グループに分れて双眼鏡の使い方や注意事項を聞き、海岸堤防に立ちました。海面にはマガモを始め、数種類のカモ類とカモメ類が多数浮いております。子ども達は双眼鏡を合わせたり、スコープで熱心に観察をしています。ある子が尋ねに来ました。沖の方のカムリカイツブリを発見しており、びっくりです。全員が確認し、感動している姿は良いものですね～。

川の方には、少し大きくて白いツクシガモが多数エサをついばんでおり、美しさに喜んでいます。葦原にはオオジュリンなど小型の鳥。動きが早くて確認するのが大変です。干拓地へ移動、本命のマナヅルを探しますが見つける事が出来ません。

“なし～おらんと”と男の子が怒っています。鳥は羽を持っているからまた飛んで来るよと告げて、帰りの鳥合わせをして解散しました。30種類を確認しました。

②「巣箱作り」 平成30年2月2日 生徒62名

午後の保護者参観日の中で、2名組で2個作る共同作業です。杉材を正確に組まないと形になりません。カナヅチを1度も使った事がない子もいます。クギを初めて打つ子、板が割れた子、クギが板から大きく出た子、指先を打った子など自分1人では難しい事、痛みを感じた事は実体験として良かったと思えました。

親子での取り付け方やエサについての話もして終わりました。

【玄海町立玄海みらい学園(小中一貫校)】

「野鳥座(寸劇)」 平成30年2月14日 1～2年生56名

アオサギ、マガモ、カムリカイツブリが支部会員、ハヤブサが担任先生の配役で行った。玄海町の学校近くを想定し、水鳥の渡りでは真面目に聞いていたが、鳥たちの食物について子ども達に入ってもらい、エサの違いなど学び、ハヤブサの先生が入ると室内は大声で騒然となります。見聞した食物連鎖のお話しは記憶にあるでしょうかね～？低学年には難しすぎるかな？でもあんなに喜んでいる仕草は癒されます。

モデル指定校で鳥の事を学んだ子ども達は総数で343名でした。またスタッフとして協力していただいた会員の方はのべ42名でした。皆様、ありがとうございました。



東山代小学校 観察会&巣箱作り



玄海みらい学園 野鳥座





各地の観察会報告



■出水探鳥ツアー報告（鹿児島県）

【日 時】 平成30年1月6日～7日

【探鳥地】熊本動植物園周辺⇒出水市⇒隼人港⇒熊本動植物園周辺⇒横島干拓

【参加者】朝田清子、江口富美子&ご子息、加藤芳隆、中島由美子、中原正義、丹羽昭一、橋本泰博、宮原史枝、八木ひとみ、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】カイツブリ、カワウ、ウミウ、アカツクシガモ、ツクシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、セグロカモメ、ゴイサギ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、クロツラヘラサギ、クロツル、ナベツル、カナダツル、マナツル、オオバン、バン、ハジロコチドリ、タゲリ、トウネン、ハマシギ、タシギ、ミサゴ、トビ、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、ハヤブサ、ツンドラハヤブサ、チョウゲンボウ、トラフズク、キジバト、カワセミ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、マミジロタヒバリ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、ニシオジロビタキ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ、カワラヒワ、アトリ、イカル、ニューナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ホシムクドリ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

※コメントは長文のため「皆さんからのお便り」のページに掲載しています。

■東よか干潟（大授搦）観察会報告（佐賀市）

①【日 時】 平成30年1月21日

【参加者】田中照美、中島修、中島由美子、松本美佐子、内田英丸、長岡保、野田純子、原秀親、原里美、矢野浩司、朝田清子、古賀郁香、橋本泰博、宮原明幸、中村さやか、徳淵義実、川部静也、水田稔、田辺憲子、永島博、山本佳苗、山本浩子、岡田昂純、甲木弘美、大川幸子、古川昌高、津山悦子、久富文江、青柳隆、加藤芳隆（案内役）、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】クロツラヘラサギ、ツクシガモ、マガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミサゴ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、ハマシギ、オオハシシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、オグロシギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、チュウシャクシギ、ハジロコチドリ、ユリカモメ、セグロカモメ、ズグロカモメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ハシブトガラス

【案内役より】

好天に加えて、集合時刻が10時のためか多くの参加者が集まり、県外から5名も参加しました。また、筑後支部の観察会と重なり、合同の観察会となりました。満潮時の潮高5.2mとやや低く、思ったより鳥たちは近付きませんでした。水際には二千数百羽のツクシガモが並び、ズグロカモメも干潟の上に広がります。

シロチドリの群れの中にハジロコチドリを見つける。10月の観察会以来久しぶり

です。当日はクロツラヘラサギの全国一斉調査であったため、本日のテーマを「クロツラヘラサギのカウント」とする。はじめは9羽でしたが、いつのまにか18羽に増えていました。参加者も多く、盛況の観察会でした。

②【日 時】 平成30年2月18日

【参加者】福田康典、高山昭彦、水田稔、河口秀博、川上武彦、川部静也、津山悦子、宮原明幸、久富文江、加藤芳隆（案内役）、田中丸雅雄（案内役）

【観察された野鳥】カワウ、アオサギ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ツクシガモ、マガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ミヤコドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、ハマシギ、コオバシギ、エリマキシギ、オオハシシギ、アオアシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ズグロカモメ、ハクセキレイ、モズ、シロハラ

【案内役より】

朝より快晴、無風の好天気です。久々に対岸の雲仙岳、多良岳もくっきり見えます。本日のテーマは「頭の黒くなったズグロカモメを見よう」と「クロツラヘラサギの群れの中にヘラサギを見つけよう」

ズグロカモメの群れの中に頭の黒くなったもの、白黒まだらのものが1割くらい。例年より早く夏羽になっているようです。ユリカモメの頭が黒いものも数羽いました。参加者は少なかったが、天気にも恵まれ快適な観察会でした。

■宇宙科学館周辺観察会報告（唐津市）

【日 時】 平成30年1月28日

【参加者】吉澤進、中村ミサ代、大藤和浩、大藤孝子、田辺憲子、川原直嗣、橋本泰博、長岡保、古賀裕美、久富文江、蒲原留美、水田稔、馬場信禎、坂田紀子（案内役）馬場清（案内役）

【観察された野鳥】カイツブリ、ヒドリガモ、マガモ、オカヨシガモ、オオバン、カワウ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラ、エナガ、カワラヒワ、カシラダカ、アオジ、シロハラ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ミヤマホオジロ、ツグミ、セグロセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、トラツグミ

【案内役より】

前日の天気予報に反して、早朝よりみぞれ混じりの空模様になり、開催を危惧していましたが、現地に8時過ぎ到着したら、早や到着の車が2～3台ありました。のぼり立てや受け付け簿の準備していたら、小雪の舞う駐車場には10台の車が到着しました。10分遅れの受け付けを開始して、遠く佐世保市、みやき町、唐津市の愛鳥家の皆様でごあいさつをし、みぞれの中で観察会の開始です。

湖に周回路に入り、湖面にはカイツブリ、ヒドリガモ、オオバンが雪の中をスイスイと泳いでおります。スコープや双眼鏡を合わせます。

さくらの古木にコゲラが開けた巣穴を発見。2mの高さは低すぎる。丘の上の木々にはコゲラ、シジュウカラ、メジロの混群がせわしく移動をしている。

公園の庭園、小川沿いに移動です。ここではヤマガラ、エナガ、ジョウビタキの



混群に遭遇した。寒いのか梢への移動が速い。時折、小雪混じりの空模様気にしながらの探鳥会です。レストハウスでコーヒータイムの小休止です。

ツルなどの鳥情報の交換をして再開した。

良〜く双眼鏡を合わせると、何と開けた木々の枝にトラツグミ（鶺鴒・又工）の姿をキャッチした。ラッキー〜でしょう、こんな所に、目の前に！心の優しい愛鳥家の皆様のご褒美でしょうネ。公園の奥へと進むが寒くて雨交じりの空模様になり、鳥合せを行い解散となりました。

■支部新年会報告

【日 時】 平成 30 年 2 月 3 日

【参加者】青柳隆、上野武美、江口富美子、蒲原留美、古賀郁香、島田洋、田中丸雅雄、田辺憲子、中村さやか、永島博、橋本泰博、馬場清、久富文江、福田康典、八木ひとみ、山崎章弘、山中美由起、吉澤進、青柳良子（案内役）

【案内役より】

さかなや道場・佐賀南店にて支部新年会を行いました。

この日は「節分」。暦の上では『春』になる日なのに、なんと「数年に一度の大寒波！」に見舞われ、昼間は雪がチラチラ・・(◡_◡) 幸い集合時刻の頃には空から落ちて来るものはなかったのですが、冷たい風が吹いていて出かけるには辛い日となってしまいました。

（皆さんちゃんとこの日を覚えていて下さるだろうか・・・）と、少々心配になっていましたが、定刻の 18:30 にはニコニコ顔が次から次へと集まって来ました！宮原支部長は九州・沖縄ブロック協議会とダブってしまったため残念ながら・・・「皆さん盛り上げてくださーい！」のラインで気持ちだけの参加。

常連の加藤さんも仕事の関係であきらめざるをえなくなってしまい残念でしたが、橋本さんの司会でスタート！中村さやかさんの挨拶のあと「今年も元気に鳥たちと楽しみましょう！かんぱーい！」と最若手・古賀郁香さんによる乾杯の音頭で飲むわ飲むわ・・食べるわ食べるわ・・しゃべるわしゃべるわ・・・

せっかく集まったのだから全員の名前と顔を覚えようと自己紹介。

19:30 まで仕事だった山中さんが到着して全員（19 名）揃ったので記念撮影をし、21:00 にはムリヤリ終了！今年の新年会も楽しい楽しい会になりました。「同じ趣味同士」というのはどんなに語り合っても尽きないものなのですね！大寒波にも負けず参加して下さった皆さん！ありがとうございました。

今年参加できなかった方！来年は是非参加して下さい。お待ちしておりますよ！二次会にも大勢の方がいらしたようです。こちらも盛り上げて盛り上げて・・・その日のうちに帰宅出来たのかどうかあやしいものです！(^~)! が、何事もなかったようで良かったです(^◇^)

■松浦河畔公園観察会報告（唐津市）

【日 時】 平成 30 年 2 月 11 日

【参加者】高山英一、水田稔、長岡保、深村徹、野上駿、宮原明幸、中島修、中島由美

子、今泉隆、今泉りえ子、川原直嗣、大藤和浩、大藤孝子、小松常光、中村葵、中村匠、久富文江、青柳隆、青柳良子、馬場清、佐久間仁（案内役）

【観察された野鳥】ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、ドバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、モズ、カササギ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン

【案内役より】

当日は今冬最大級の寒波到来。開会時に小雪が舞い、ホシハジロを見ようと松浦大堰の上に立った時には吹雪状態に。あまりの寒さに経路をショートカットし、二時間で切り上げたため、登場種も若干少なめに終わりました。そんな悪天候下でしたが、大群のホシハジロに感嘆いただき、普段なかなか見つけづらいオオジュリン数羽を15mの距離からじっくり観察いただきました。今後も、下見時に見かけたアカエリカイツブリ（冬羽）らしい鳥を探してみたいと思います。

また、一昨年初認したベニマシコの再出現にも期待！



（写真提供：佐久間仁さん）

■巨勢川調整池観察会報告（佐賀市）

【日時】 平成30年2月25日

【参加者】上野武美、大川幸子、加藤芳隆、北島博、古賀郁香、高山英一、津川悦子、水田稔、宮原明幸（案内役）

【観察された野鳥】カイツブリ、カワウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オナガガモ、カルガモ、ホシハジロ、ダイサギ、アオサギ、オオバン、バン、タゲリ、ミサゴ、オオタカ、チョウゲンボウ、キジ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス

【案内役より】

佐賀は朝から雨、とても探鳥出来る天気ではありません。雨でも、必ず一人二人はお見えになる方がいるから？と東名縄文館駐車場へ向かいます。

果たして、いらっしやいました（笑） 集合時間1時間前なのに、お二方。

集合時間迄には9人、雨も小降りになり傘を差して実施です。

ヒバリのさえずりが四方から聞こえています。池のカモは渡り出したのでしょう、激減しています。目立つのはカワウとマガモ、ヨシガモ。目の前の葦原では、ツリスガラが30羽ほどチョロチョロ動きます。キジも葦の中にジッと隠れています。幸い雨もやみ、池を一周することに。

オオジュリン、アオジ、ホオジロ、夏羽に変わったカシラダカ、田圃のセンダンの木ではオオタカ成鳥も。キジも3個体出てくれました。

■小城公園観察会報告（小城市）

【日 時】 平成 30 年 3 月 4 日

【参加者】中島修、中島由美子、川原直嗣、青柳良子、青柳隆、宮原明幸、内田英丸、徳淵義実、橋本泰博、川上武彦、松原忠夫、松原はま子、大石恵子、長岡保、長岡景子、福田康典、古賀郁香、野上駿、深村徹、永島博、高山英一、津山悦子、島田洋、水田稔、荒木潔枝、上野武美、江口富美子、久富文江、蒲原留美（案内役）

【観察された野鳥】カイツブリ、コサギ、ゴイサギ、キジバト、ドバト、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、クイタダキ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、アトリ、イカル、スズメ、カササギ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

【案内役より】

昨日の天気は嘘のように晴天となった観察会当日、少しでも多くの鳥に出会えるようにと願いつつスタートしました。コースは昨年とほぼ同じにしましたが、今年は池を一周し、コサギ、ゴイサギの日光浴も観察しました。イカルのきれいな声を聴きつつ、梅林、寄生木前から坂道を上り公園内に。植込みの中を出たり入ったりするウグイスやアオジ、シロハラ、高い木にたわわに実るかのようなアトリの群れ、神社ではコゲラの特徴的な背中をじっくりと観察することができました。昨年の観察会では観られなかったモズの姿も観ることができました。公園内を小さく回り戻った梅林では、小城公園では最近観られなかったクイタダキの姿に歓声があがり、良い雰囲気の中で観察会をしめくくることができました。青柳さんの補助をいただきながら、小城公園の案内役をさせていただいております。皆様に楽しんでいただけるような工夫はまだまだ足りないのですが、嬉しそうな顔で双眼鏡を覗かれている姿に、案内役の役目が少しは果たしているのかなとホッとしております。今回は遠方からも参加いただき、庭園の作りにも興味を持っていただいたようです（庭園の説明は青柳隆さんにしていただきました。ありがとうございました。）。小城公園は、小さな公園で2時間もあればじっくり観察することができます。これからは桜がきれいな季節です。小城公園は桜の名所でもありますので、お散歩がてらまた足を運んでいただければ嬉しい限りです。春の鳥も皆様をお待ちしております。

県外探鳥ツアーのご案内

『春の渡りを満喫しよう！ 山口県「見島」探鳥ツアー』

【日 時】 5月4日（金・祝）～5月6日（日）

【探鳥地】 山口県萩市『見島』

『佐賀野鳥の会』と『日本野鳥の会 佐賀県支部』合同での探鳥旅行です。

萩港発 8時20分 の船に乗りますので佐賀を早朝に発ちます。

詳細は、申し込まれた方へ直接ご案内致します。

【費 用】 3万円強の見込み 【申込み締め切り】 4月10日頃

【申し込み先】 宮原 明幸さん（佐賀市・携帯：090-2507-7085）まで。





皆さんからのおたより



●「普通動物図譜の鳥たち 第7回」・・・山澤 健一さん（茨城県神栖市）

この図譜には鳥類として野鳥、家禽、愛玩や大型の鳥類などが掲載されています。今回はフクロウ、ミミズク、オオワシの猛禽類です。野鳥は今回で終わり、次回からは別のシリーズ（家禽や大型鳥類など）を紹介します。



左から
ふくろふ（フクロウ）
みゝづく（ミミズク）
おほわし（オオワシ）

●「群れる鳥たち」・・・永島 博さん（佐賀市）

2/11、小城公園でアトリの大群が木に止まっていました。写真の中だけでも246羽います。これは一部分です。千羽以上いた計算になります。（※編集係より：見易くするため、写真の一部を拡大して掲載しています。この中には246羽もいません。（^_^））また、数十羽のエナガの群れにも出会いました。小雪舞い散る寒い日でしたが、辺り一面エナガだらけになり、思わず顔がほころびました。（写真に撮るのは難しいです。）2/13、自宅（佐賀市本庄町）付近ではカササギの群れ。カササギがにぎやかだなんて思って外へ出てみると、たくさんのカササギがいました。写真には14羽います。



アトリのなる木



エナガ



カササギの集会

●「浜川河口のクロツラヘラサギ K95」・・・樋口 作二さん（鹿島市）

今年も「K95」を浜川河口の中洲で確認でき、元気な姿に今年も出会えて感慨深い瞬間を味わうことができました。最大22羽の仲間たちと一緒にでした。

このK95、初めての出会いは、まだ浜小学校で勤務していた7年前、6年生にせがまれてクロツラヘラサギを見に行った時でした。急な話だったので、見るのは無理だろうと思っていたら、運よく水辺で集団で餌をとっており、ちょうど浜川を上ってきた伝馬船と一緒に写真を撮ることができました。この写真、構図がよくて大変気に入り、よく眺めていたら、なんとその中の一羽に足輪がありました。おまけにまだくちばしが茶色だったので幼鳥。そこで、何回か通って、K95の文字をスコープで確認できました。

K95のことをある会議で話したら、なんと足環を付けに行った人がいて、韓国仁川市人工島生まれということが分かりました。

以来、毎年合うことができましたが、去年は合うことができませんでした。心配しておりましたら、野鳥の会の友人が熊本新港にいたことを教えてくれました。なんと、子供を連れて飛来したとのこと。「そうか、君は雌だったのか！」去年は北帰行の前に浜川に立ち寄ってくれました。

今年も、最初から浜川で過ごしています。彼女にとって浜川は幼いころから過ごした、なくてはならない所なのです。

船の航行に差し支えるからと中洲の撤去も要望されていますが、「ねぐらとして最適で、すぐ近くで餌も取れる最高の場所がここですよ。」とK95の代弁をして、人と野生動物がともに住める環境を作っていきたいと思っています。

『君は、人間でいうと何歳ぐらいになるんだい…？』



●「恒例！ 出水探鳥ツアーに行きました」・・・宮原 明幸さん（佐賀市）

1泊2日の行程で南九州方面へ行って参りました。佐賀からは10人レンタカー乗り合わせで、出水より朝田さんと合流します。熊本動物園横、加勢川沿いの遊歩道でニシオジロビタキを観察後、出水へ向かうことにして立ち寄ります。

加勢川にはオオバン、ヒドリガモ、カイツブリ、動物園側ではモズ、イカル、ジョウビタキ。30分程待ちますがニシオジロビタキは出て来ません。

出水でお昼に朝田さんと合流の約束、向かいます。お昼前に合流、東干拓でツルを観察。

環境省よりツル分散化の為に餌を減らすとは聞いていましたが、少ない！ 去年の4分の1もいません。ほとんどナベツル・マナツル、遠くのクロツルも入っています。

カナダツルは至近距離、裸眼で頭のハートマークが確認出来るほどです。

初参加の朝田さん・江口さんの息子さん、ベテランの丹羽さん・八木さんも撮影に余念がない。

今年、出水で越冬するツルの種類はナベクロを残すだけ。周辺部の鳥を楽しみます。

タゲリが優雅に舞っています。 田圃にはヒバリ・タヒバリ・マミジロタヒバリ、道脇の小川をチー♪ カワセミが飛びます。 キセキレイもピョコピョコ、アオサギ・コサギも採餌中、川の深水には何千ものフナやハヤが真っ黒な塊となって泳いでいます。

ここでは、ツルの越冬誘致の為に農薬や肥料をふんだんには撒かないのでしょうか？

佐賀の田圃の水路にも昔はドジョウやフナいたのですが、羨ましい限りです。

ニューナイスズメを探しましょう。堤防の道路を進みます。アシ原はカワラヒワ、堤防上はイソヒヨドリ、海の家苔竿にはミスゴが群れて止まっています。 橋本さんの情報では蕨島小学校周辺にニューナイスズメは群れているとのこと。果たしていましたが、校舎横の植木に。 電線にもビッシリ。枯草にはホオアカ、山の腹をノスリも舞っています。

珍鳥こそ出ませんが、鳥種の多いのは嬉しい。

『未だチョウゲンボウ出ませんね？』『その、棒杭の上！』サービスも良い♪

水田の畔ではハマシギ、干潟で見るのとは違って見えます。タシギも・・・

あっという間に夕方。残念ながら、江口さん親子は日帰り、出水駅へ送って行きます。

宿は駅前の「ホテルウィングインターナショナル出水」 すっかり出水探鳥行の定宿になりました。

5時、チェックインするには一寸早い。 カメラマンもいることだし沈むお日様の前を飛ぶツルが撮れたらと、戻ります。

残念ながら棚引く雲に太陽は隠れています。 鳥を探しましょう、東干拓入り口の川沿いを走ります。 アオジ？ アシ原を小鳥が飛びます。 対岸の河辺林にオオタカみ成鳥が止まっています。カメラマン、そっと車から出てカメラを向けた瞬間・・・飛びました（涙）小さな池があります。 池ではカイツブリが大きな魚を捕まえて飲み込むのに大苦勞、アメリカヒドリとの交雑種？ 緑の入ったヒドリガモも数羽。

ホテルチェックイン、ホテルのレストラン『ゆめぜん』で懇親会♪ 鳥談義に花が咲きます！

2日目、朝田さんは出水に残りツルを見たいとのことで、ホテルでお別れ。

午前6時半、二日酔いの面々？は鹿児島隼人港へオオホシハジロを見に。

山道をナビの言うまま走り8時過ぎに現地到着。 先に橋本さんオオホシハジロの撮影に来られています。 現地では橋本さんの案内でポイントへ・・・『ホシハジロの数が少ない？』

『冬至を過ぎたら渡りが始まる』と昨日話しが出ていましたが、渡り出したので、オオホシハジロには会えず終い。

アトリ、ゴイサギ、ここでもクロツラヘラサギが観察出来ました。

次は、昨日の動物園横へ再挑戦、ニシオジロビタキ♀は到着後あっさり出てくれました。加藤さんの解説では上尾筒の色が違うとか？ 私では同定出来ません。

彼の鳥は、警戒する様子もなく目の前を右へ、左へチョロチョロと動きまわります

『可愛い♪』ご婦人方から声が上がります。

お次は、加勢川のボート乗り場（水前寺江津湖公園でした）にアメリカヒドリとの情報で川沿いに移動。10分 800mほどで到着、広い池に1羽いますが遠い！

車へ戻って江津湖公園駐車場へ。 ここは公園・・・遊具のスワンボートで漕ぎ出す家族連れ。 スワンボートが近づきアメリカヒドリが離れて行きます。

野鳥の会の紳士淑女が・・・口汚く罵っておられます（笑）。

アメリカヒドリも意地悪く、オオバンが潜って採って来た水草を横取りしています（汗）。

早やお昼、有明湾沿い国道 501 号線をひた走り最後の目的地、横島干拓へ。
横島干拓は、昨日加藤さんが仕入れた情報によりますとトラフズクとシベリアハヤブサです。情報では牧場のところ、港のポンプ小屋の横の木ですが・・・葉を落とした木の中にはキジバト、ツグミ、電柱のホシムクドリ・・・トラフズクは影も形もありません。周りの木々を虱潰しに見て回りますが、駄目です（涙）。諦めかけた時、堤防の奥にバーダーの姿。早速向かいます。『何か居ますか？』トラフズクでした♪
『三角に切れた処の奥！ 2羽いるでしょう、左上に1羽、もう1羽は・・・』
丁寧に教えて下さいます。佐賀県立森林公園にトラフズク来なくなって 10 年は経つでしょう、久しぶりの出会いです。

『シベリアハヤブサは、どの辺りですか？』 『ツンドラハヤブサ、朝は堤防の上を飛んでいましたヨ！』 どうやらシベリアではなく、ツンドラのようなのです？

『海の方には、カツオドリも来ていますよ』 『ほら、あそこ』海苔竿のずうーっと先、遙か遠くに舞っている鳥を指差されますが、同定は無理！ カウントしませんでした。ツンドラハヤブサのポイントは加藤さんがしっかり聞き出されていました。

牧場先の電柱、手前より5本目の上、止まっていた♪

オオハヤブサのドイツ軍ヘルメットよりは、はっきりしませんが頭全体黒く胸にピンクの羽（したたり落ちた血が着いたみたいな）でした。

電柱の先の畠にはアカツクシガモもいます。締めは、トウネンとハジロコチドリ。欲張りな探鳥行でした。

※今回の出水探鳥ツアーは八木ひとみさんのデジブックでご覧いただけます。

『探鳥旅行』

<http://www.digibook.net/d/46d4ef1fa009b6f0a53008d2548d179a/?m>

● 「“カラスの研究者”のお話（メモ）についての紹介」



・・・青柳 隆さん（小城市）

『佐賀大でカラスのお話が聞けます』というご案内を中村さやかさんからいただきました。

カラスたちがどんな会話をしているのか、興味を持ったことはありませんか？
「カラスが何を喋っているのか明らかにしろ！」という師匠の無茶ぶりから始まった演者のカラス研究も 15 年が経ちました。研究開始当初は、全てのカラスの鳴き声が同じように聞こえましたが、今ではカラスたちがどんな会話をしているのか、ある程度わかるようになりました。現在は、コンピュータを介し、カラスとの会話を試みており、その技術を迅速に社会還元すべく、起業しました。・・・

ということで、面白そうなのでお話を聞きに行きました。以下、メモしたことを箇条書きに並べただけで難解な部分もあるかと思いますが、まとめてみました。

「カラスの研究者」のお話

塚原 直樹氏 (総合研究大学・大学院助教)

2018年1月15日(月) 於 佐賀大学農学部

- カラスによる農作物被害は年間 17 億円にもなる。
他にも、メガソーラー破損・巣材による電線ショート・ゴミのちらかし・・・ etc
- カラスの遊び
電線にぶら下がる・すべり台をすべる・猛禽の背に乗る・鹿の背に乗る・・・ etc
(いわゆる「遊び」ができる野鳥はカラスだけ。エサが豊富なので生活に余裕がある)
- カラス研究を始めたきっかけ 「宇都宮大学 杉田昭栄教授(カラス博士)」の影響
鳴き声の分析をしたら
 - ・ 餌ねだり・・・尻上がり ・ねぐら入り・・・平和的な声 ・ねぐら出発
 - ・ 警戒・・・短く強い ・威嚇・・・濁った声 ・戦闘など 41 種の声を確認した。 鳴き声と発声器官には性差がある。♂が♀より低い声。
ディストレスコール・・・鳥が恐怖を感じる時に発する鳴き声
- カラスは賢く嘘であることをすぐに見破る。
カラス同士でも「知り合いかどうか」を声で判断する。
スピーカーでカラスの声を流したら「知り合いじゃないカラスの声」にびっくりして逃げるがあった。
- カラスは人間には見えない紫外線を見ることができる。
◎紫外線の有無が物の識別に関係している。 紫外線処理をすれば見えなくもなる。
「黄色がきれい」は全くの嘘。 ゴミ袋を単に黄色にただけでは意味がない。
- 「捕獲されたカラス」について・・・ただ処分されるだけ。食べられるのであれば有効活用できるが・・・その研究もしてみたい。
安全性・栄養的価値・市場性・・・イメージは変えられるか? などが課題。
(鉄分とタウリンが豊富とのこと)
- カラスを市街地から遠ざけるための工夫として
 - ・ カラスの剥製ロボットの作製(なるべく生きたカラスに近いもの)
 - ・ ドローンのカラス化(剥製が空を飛ぶ)・・・などを検討している。カラスはマヨネーズが好き(カラスはマヨラー)なので、そのことを利用して何かできないか?と 考え中。
- 鳴き声の音源が2個ある。
地鳴きのバリエーションがいっぱいある。それを組み合わせていろいろな鳴き方になる。
ハシブトは苦しい姿勢をしないでもいろいろな鳴き声が出やすい。
(澄んだ声とか シャがれた声とか)
体が小さい割に大きい声を出す(体全体をゆすって動かす)



●カラスの年齢は2歳までは口の中に赤みがあるので分かるが、それ以上は年齢がわかりにくい。

●カラスは鼻が悪い。(においでは判断していない) 目は人間が思う以上に良い。

Q：物置にゴミ袋を入れて置いたらカラスが物置に入ってゴミあさりをした。
において物置に入ってしまったのでしょうか？

A：たぶん人間が物置にゴミ袋を持って行ったのを見ていたのでしょうか。
それで人がいない時に物置に入ってしまったのだと思います。
「におい」で入ったのではないと思われます。

●カラスには「哺乳類の角膜」には見られない「脂質」に関するタンパクが多量にある。

※今回のお話は、カラスについて無知だった私には良い勉強の機会でありました。



有明海の満潮時刻 (六角川観測塔)



※潮高 5~6m前後、午前9時頃からお昼頃に満潮を迎える日時を掲載しています。

	時刻	潮高 (m)		時刻	潮高 (m)
4月1日	9:56	5.5	5月1日	9:49	5.4
4月2日	10:26	5.5	5月2日	10:17	5.3
4月3日	10:51	5.3	5月3日	10:42	5.1
4月4日	11:13	5.1	5月15日	8:55	5.4
4月15日	8:53	5.3	5月16日	9:36	5.5
4月16日	9:29	5.4	5月17日	10:15	5.5
4月17日	10:04	5.5	5月18日	10:53	5.3
4月18日	10:37	5.4	5月19日	11:31	5.1
4月19日	11:08	5.3	5月29日	8:43	5.3
4月20日	11:39	5.0	5月30日	9:17	5.2
4月29日	8:45	5.4	5月31日	9:43	5.2
4月30日	9:19	5.4			

※中村さやかさんの「日本野鳥の会佐賀県支部ブログ」に詳しい情報が掲載されています。

<https://blog.goo.ne.jp/sayatit2000/e/13c13d6af1ae7e5f397cbbe85eb76489>

満潮時刻と潮高をたしかめてから行こう！

■ 東よか海岸

潮高 5.0m 満潮の2時間前くらいがベスト！

■ 鹿島新籠海岸他

潮高 4.0m 満潮の1時間前後がベスト！

満潮時には、残された干潟に鳥が集まり、近くで見やすい状態になります。ただし、小潮だと遠すぎるし、大潮になると干潟が水没してしまって、鳥が移動してしまいます。)





皆さんからの野鳥&生きもの情報



■加藤 芳隆さん（上峰町）

- 12月29日【佐賀空港周辺】ハイイロチュウヒ♀、タゲリ、ムクドリ、ホシムクドリ、ホオジロ、タシギ、ツグミ、ヒヨドリ、ミヤマガラス、コクマルガラス、ズグロカモメ、キジバト
- 12月30日【鎮西山】オシドリ、カワセミ、ホオジロ、ミヤマホオジロ、アオジ、シロハラ、ヒヨドリ、メジロ、コゲラ、ウグイス、キジバト、キセキレイ、ツグミ、ルリビタキ
- 1月21日【佐賀空港周辺】ノスリ、タゲリ、ムクドリ、ホシムクドリ、ホオジロ、ツグミ、ヒヨドリ、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、モズ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、コガモ
- 1月28日【小城公園】ヒレンジャク、ツグミ、シロハラ、カワセミ、カササギ
【森林公園】シロハラ、ツグミ、マミチャジナイ、アトリ、コゲラ、セグロセキレイ、ウグイス
- 2月 1日【巨勢川調整池】マガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、トモエガモ、オオバン、コガモ、カルガモ、カワウ、ミサゴ、キジ
- 2月25日【佐賀市】ビンズイ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、オシドリ、カワウ



頭の黒くなったズグロカモメ



マミチャジナイ

■八木 ひとみさん（佐賀市）

- 1月24日【石井樋公園】ハチジョウツグミ
- 2月 4日【富士町】フクロウ
- 2月11日【大和町】カワアイサ
- 3月 3日【東よか干潟】オオジュリン、ツリスガラ、アトリ
- 3月10日【富士町】ハイタカ 【大和町】メジロ、ショウジョウバカマ
- 3月11日【みやき町】カワラヒワ、アマナ

今年は雪がたくさん降りました。雪の日の探鳥で一番うれしかったのは雪の降る中、富士町の林道で「ベニマシコ」がでないか車中で待っていると、ふわりと「フクロウ」が飛んできてくれたことでした。そよ風館より上流に「カワアイサ」の雌が3羽いて、いつもは石の上で寝ているのですが、雪の日はいつもと違う生き生きした様子が見られました。

佐賀市のバイオマス拠点

予定地に希少種28種

藻類培養拠点として造成される予定地
佐賀市高木瀬町

ご迷惑をおかけします
藻類培養事業用地の
基盤整備を行っています。
平成30年 3月16日まで
時間帯 8:00~17:00
藻類産業拠点地整備事業造成工事
発注者 佐賀市役所 環境部
バイオマス産業都市推進課
電話 0952-30-2431
施工者 (1工区) 野田建設株式会社 電話 0952-62-0940
請負金額 ¥86,226,120(税込)
(2工区) 奥西村土木建設株式会社 電話 0952-20-3135
請負金額 ¥99,177,240(税込)



佐賀市は14日、バイオマス事業の一環で藻類培養拠点として造成する予定地約20㏎で、希少な動植物28種類を確認したことを明らかにした。環境省や県が「絶滅の危機にひんしている」と判定している絶滅危惧Ⅰ類種も含まれていた。市は植物を別の場所に移植するなどの対応を検討し、造成計画は継続する。

造成予定地は市清掃 昆虫4種類、淡水魚・工場（高木瀬町）の北 底生生物12種類、絶滅側。工事着手に当たり、危惧Ⅰ類は1種類で、市が昨年4月に民間団 ほかは絶滅の危険が増体が調査を委託、今年 大している絶滅危惧Ⅱ1月に最終報告を受け 類や準絶滅危惧種などだった。乱獲防止のため種類名は公表していない。

調査の結果、予定地の田や水路、あぜ道で希少種を確認した。内 市環境政策課は、予定地内では生態系の保全類1種類、鳥類2種類、を優先することについて

絶滅危惧種も 移植検討 計画は継続

「企業活動への影響が大きくなるため、非常に難しい」との考えを示している。環境保全に關し市に助言する市自然環境懇話会からは、2カ所に希少植物を移植するよう提案された。市は、予定地南側の水路に移植したり、種子を保存したりして、同様の自然環境を残すことを検討している。

市は用地造成事業費として、2018年度一般会計予算案に3億4100万円を計上している。造成後は藻類培養企業に売却する。環境政策課は「専門家の意見も聞きながら具体的な対応を検討する。自然環境に配慮しながら事業を進めた」としている。

(山口貴由)

レジャー TOPIC

博物画のような美しい図鑑

フランスの絵本作家とイラストレーターが手掛けた、かつての博物画のような絵が魅力的な図鑑「観察が楽しくなる美しいイラスト自然図鑑」全4巻（創元社）が刊行された。

ペン画に水彩が施されたオールカラーで、「動物」「野菜と果実」「樹木」「昆虫」の4巻。学名やデータなどの他、ユニークな豆知識や解説も添えられて

いる。「動物」は生息環境別に、「野菜と果実」は色合い別に、それぞれ約100種を収録。「樹木」は欧州をはじめとした世界の57種、「昆虫」は65種を紹介している。本は縦30㏎、横約22㏎で、広がりのあるイラストが楽しめる。

価格は各巻1728~2052円。

「観察が楽しくなる美しいイラスト自然図鑑」



(18/3/15 付け：佐賀新聞)

(17/12/14 付け：佐賀新聞)
今後も面白そうな、楽しそうな書籍を紹介していきます。



近隣地区の観察会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■日本野鳥の会 福岡支部 (参加費：会員 100 円 一般 300 円 中学生以下無料)

日時：4月1日(日)、5月6日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・今津、雨天中止 / 集合：9:00 玄洋高校北西の端道路

日時：4月3日(火)、5月1日(火) 10:00~ (定例探鳥会) **集合時間にご注意を！**

場所：春日市・春日公園、雨天中止 / 集合：10:00 旧公園管理センター前 (第5駐車場横)

日時：4月14日(土)、5月12日(土) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・大濠公園、雨天中止 / 集合：9:00 公園ボート乗り場前

日時：4月8日(日)、5月13日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福岡市・和白海岸、雨天中止 / 集合：9:00 JR 和白駅前の和白公園

日時：4月15日(日)、5月20日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：筑紫野市・天拝山、雨天中止 / 集合：9:00 天拝山歴史自然公園水上ステージ横

日時：4月22日(日)、5月27日(日) 9:00~12:00 (定例探鳥会)

場所：福津市・久末ダム、雨天中止 / 集合：9:00 久末ダムの多目的広場横の駐車場

■日本野鳥の会 筑後支部 (参加費：会員 100 円 一般 200 円 高校生 100 円 中学生以下無料)

日時：4月1日(日) 10:00~ (定例探鳥会)

場所：小郡市・花立山 / 集合：10:00 小郡市干潟の城山公園駐車場

担当：森池勝利さん 携帯：090-1873-6007

日時：4月8日(日) 9:00~ (定例探鳥会)

場所：高良山(久留米市) / 集合：9:00 久留米市御井町・高良下宮社

担当：溝田泰博さん 携帯：090-4357-3043

日時：4月22日(日) 9:00~ (定例探鳥会)

場所：大牟田市・黒崎公園 / 集合：9:00 黒崎公園第1公園グラウンド

担当：野田達行さん TEL：0944-58-1672

MINI BIRD GALLERY

(撮影：八木 ひとみさん)



カワラヒワ



ハチジョウツグミ



梅にメジロ

～野鳥さが原稿募集中～

①詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。

②投稿・ご意見などをお寄せください。(編集部：馬場順一)

〒841-0053 鳥栖市布津原町 61 A12-11 携帯：090-5084-2649

(Eメール) f_baba841@ybb.ne.jp

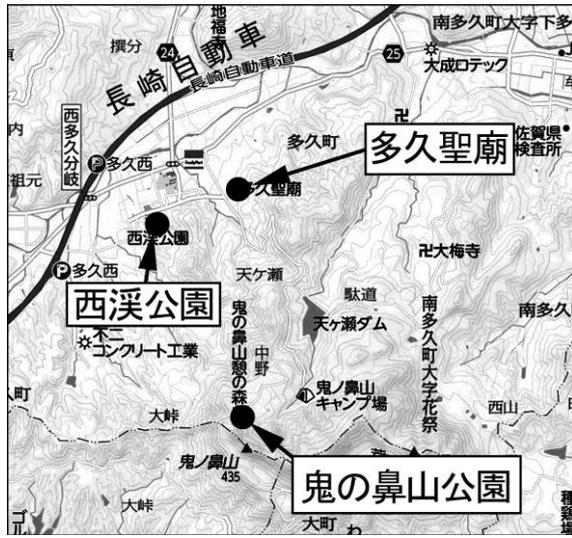




観察会会場までの案内

交通手段が無い場合は、担当者までご連絡を！

①3月25日 多久市・鬼の鼻山公園



②4月1日 小城市・小城公園



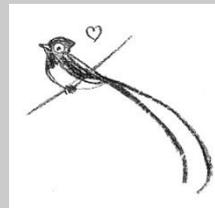
③4月15日 ⑤5月1日 東よか干潟



④4月22日 ⑧6月3日 佐賀市・石井樋公園



⑦5月13日 神崎市・脊振山





観察会などのご案内 (2018年3月下旬～6月)

①3月25日(日)

鬼の鼻山公園観察会(多久市)

[時間&場所] 9:00

多久市の鬼の鼻山公園駐車場

[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085

[見どころ] 展望台のある山頂までは歩いて15分程度、360°の展望が待っているそうです。ウォーキング&低山の鳥たちを楽しみましょう。

②4月1日(日)

小城公園 お花見懇親会(小城市)

[集合] 10:30 小城公園 梅林

[担当] 青柳 良子さん(小城市) 090-1659-7353

※飲み物、食事は各自持参して下さい。申し込みは不要です。お花見期間中ですので、車で来る場合は、駐車場の協力金として500円が必要です。できるだけJRをご利用ください。小城駅には唐津方面からは9:38着 佐賀方面からは9:54着となります。

③4月15日(日) ⑤5月1日(火)

東よか干潟(大授搦)観察会(佐賀市)

[時間&場所] (4/15)8:00 (5/1)9:00

佐賀市東与賀町の東よか干潟展望台

[担当] 田中丸 雅雄さん(佐賀市)080-1707-9225

加藤 芳隆さん(上峰町) 090-4510-1560

④4月22日(日)

石井樋公園観察会(佐賀市)

[時間&場所] 9:30

佐賀市大和町 石井樋公園「水ものがたり館」

[担当] 青柳 良子さん(小城市) 090-1659-7353

⑦5月13日(日)

脊振山観察会(神崎市)

[時間&場所] 8:00

神崎市脊振町腹巻の脊振神社下宮駐車場

[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085

[見どころ] 春の渡りの季節です。夏鳥たちの歌声を楽しみましょう。さらに北を目指す鳥たちにも出会えるかもしれません。

⑧6月3日(日) 石井樋公園観察会 & 支部総会(佐賀市)

[時間&場所] 9:00

佐賀市大和町 石井樋公園「水ものがたり館」

[担当] 青柳 良子さん(小城市) 090-1659-7353

※観察会の後、10:00から「水ものがたり館」にて、支部総会を行います。

⑥5月4日(金)～6日(日) 見鳥探鳥ツアー(山口県萩市)

[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市・携帯:090-2507-7085) 詳しくは8ページの案内をご覧ください。

共通事項

- ① 資料代、保険代として100円頂戴しています。
- ② 雨天中止。(前夜18:55のNHK天気予報で降水確率50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ～日本野鳥の会佐賀県支部 会報～
 公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
 電話 03-5436-2620(代) FAX 03-5436-2636
 日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸
 事務局：中村さやか (☎ 0954-60-4424 携帯：080-8863-5659)
 〒849-1315 鹿島市三河内2974-1
 郵便振替 01710-8-82339 「日本野鳥の会佐賀県支部」